



建築物の解体と再利用

こんな問題に取り組んでいます

持続可能社会に向けて建築物の寿命を延ばし、より長い期間に渡り使用することが必要になってきました。解体の際の廃棄物量や環境負荷に着目しながら建築ストック利用の可能性を探ります。

こんなことがわかってきました

建物本来の用途と需要が合わない場合には作り変えることもときに必要となります。部分解体や移設などその手段は様々です。建築物の構法や用途、解体方法により材料のどこまでを再び使用できるかは大きく異なります。

研究の成果はこんな分野に活かされます

再利用する場合について環境負荷や工期、コストなどを実際の資料から算出し、新築した場合について予想されるものと比較することで効果を検証します。

連絡先: 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 社会文化環境学専攻
清家剛<seike@k.u-tokyo.ac.jp>



仮設住宅の移設作業現場(福島県)



躯体再利用工事現場(岐阜県)